



8月25日、出会いの場、交流促進の場を目的として設けられたこのつどいは13回目を迎えた。参加ボランティアも23団体、100人を超すイベントに成長した。半田康行会長の開会の辞(写真上)について、児童によるウエルクラブ活動の成果が発表された。敬老会でのメッセージ作成と交流、高齢者施設の訪問、童話の朗読など目を見張る活動が報告された。

大蔵ウエルクラブは7人児童が参加。車いす、アイマスク、高齢者疑似体験などを試みた。車いすを交代で体験した岩崎、松本君は

「簡単そうで注意がいり、むずかしかった」と語った。引率した二俣さんは女子児童に「乳がんを知ろう」コーナーを勧めたが、恥ずかしくて行こうとしなかったと苦笑した。

アイマスクをした女児は、「階段を降りるのが怖かった」と一言。私に「老人たちはこんを視力で生活しているのだよ」

と言われ、驚いた様子だった。内容充実の素晴らしい集いだった。

